

2. 第8期（2018年7月～2019年6月）事業計画・予算

事業計画

1. 第8期事業の基調

MELONの活動は2018年7月から26年目に入りました。

日本政府が2030年度に温室効果ガス排出量の2013年度比26%削減をめざす中で、環境省によるCOOL CHOICEの呼びかけなど低炭素社会の実現に向けた普及啓発活動や、地球温暖化への緩和策・適応策の検討がますます重要性を増しています。また、国連が持続可能な社会をめざしたSDGs¹⁾を提唱し、国内ではESD²⁾のさらなる推進のために全国各地域にESD活動支援センターが設置され、東北地方ESD活動支援センターはMELONが請け負っている東北環境パートナーシップオフィス〈EPO 東北〉が運営しています。また、未来へ続く循環型社会の構築のために4Rの普及啓発や食品ロスの低減、生物多様性維持のための自然生態系の保全や、それらの諸問題を次世代に伝える子どもたちへの環境教育の充実なども重要課題です。

宮城県内に目を向ければ、女川原発の再稼働問題や火力発電所問題などは引き続き予断を許さない状況であり、再生可能エネルギーへのシフトや電力自由化による電力会社の選択も未来を左右する要素となります。

これらを踏まえ、第8期はMELON内で立ち上げた組織基盤強化プロジェクトで2年に渡り検討してきた、組織基盤強化や運営見直しに関する21のアクションプランをできることから実行に移します。並行して地球環境保全の普及啓発活動も進めていきます。

- 1) SDGs : (Sustainable Development Goals) 2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2016年から2030年までの国際目標です。持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の誰一人として取り残さないことを誓っている。
- 2) ESD : (Education for Sustainable Development) 環境、貧困、人権、平和、開発といった様々な現代社会の課題を自らの問題として捉え、身近なところから取り組む (think globally, act locally) ことにより、それらの課題の解決につながる新たな価値観や行動を生み出すこと、そしてそれによって持続可能な社会を創造していくことを目指す学習や活動のこと。

※ 第3期～第7期まで策定していた中期目標について

中期目標に掲げていた項目はどれも重要事項でしたが、環境活動は世界の動向や状況の変化に応じ毎年タイムリーに有効な活動をしていく必要があり、複数年にわたる目標を定めようとするとなりにめざす抽象的な理念に近づいてしまいます。よって第8期以後は抽象的な中期目標ではなく、組織基盤強化プロジェクトに基づく具体的提案を実施・検証していくこととなりました。

2. 第8期の強化ポイント

- (1) 低炭素社会の構築に向けた普及啓発活動
ストップ温暖化センターみやぎにおける地球温暖化防止活動を中心に、環境省が進める国民運動「COOL CHOICE (=賢い選択)」を告知・推進し低炭素社会の実現をめざします。
- (2) 部会（センター・プロジェクトを含む）による効果的な活動の実施
資金やマンパワーを効率良く使い効果的な活動を実施するために、活動テーマや目的を吟味し部会間の連携を進め、部会のあり方を整備するとともに、国連の提唱するSDGsを意識して活動します。

- (3) めざす姿と 21 のアクションプランに基づく体制づくり
組織基盤強化プロジェクトで策定した「2030 年の MELON～めざす姿と 21 のアクションプラン」に基づき、掲げたアクションプランを実行します。まず理事会の下にテーマごとの専門委員会(企画検討委員会、財政健全化委員会、政策提言・広報委員会)を設置し、各委員会で課題解決の具体案を検討します。想定される内容としては、安定した財源確保の方策、会員制度の見直し、部会・プロジェクトのあり方を見直しなどです。
本アクションプランの遂行を通じて、組織基盤強化や活動体制の充実を図ります。
- (4) めざす姿と 21 のアクションプランの実施
「2030 年の MELON～めざす姿と 21 のアクションプラン」に基づき、事務局ですぐに実施できるアクションについては随時実行していきます。

※以下 3.～7.については活動計画の項を参照

3. ストップ温暖化センターみやぎの活動計画

4. MELON 情報センターの活動計画

5. 部会・プロジェクト等の活動計画

- (1) 水部会
- (2) 食部会
- (3) 4R 推進部会
- (4) MELON cafe
- (5) 自然エネルギー等普及プロジェクト
- (6) みやぎ里山応援団
- (7) エコシティ仙台プロデュースプロジェクト
- (8) エコ住宅部会

6. 行政・他団体とのパートナーシップ等の活動

- (1) EPO 東北（東北環境パートナーシップオフィス）
- (2) キリバス共和国における再生可能エネルギーの開発・普及事業（地球環境基金を受託）
- (3) 環境省・宮城県・仙台市等と連携した事業
上記行政と積極的にコンタクトをとり、有意義な事業受託をめざします。
- (4) 行政・他団体の審議委員会などへの委員派遣等
環境省・宮城県・仙台市を始め、行政・他団体の委員会などへの委員派遣については、意義のある有効な会議には積極的に派遣します。

7. 環境市民講座事業運営計画

8. MELON 会員と市民のつどい（第 8 期 MELON フェスタ）

- 9 月 29 日（土）仙台市シルバーセンター第一研修室にて、役員、会員、事務局の交流をメインとした MELON フェスタを開催します。開催に向けて実行委員会を立ち上げ企画・準備を行います。

9. 会員と活動資金の計画

(1) 会員の増加計画

個人 30 名程度の新規会員獲得を含め、第 7 期よりも会員数を増やすことをめざします。

- ① MELON が開催する各種講座・イベントの参加者が会員加入につながるように、魅力ある内容で継続して参加してもらえるような活動を心がけます。
- ② 役員・事務局があらゆる場面で関わる人々に積極的に声がけし、MELON を知ってもらい入会していただくことを意識して活動します。

(2) 活動資金の計画

- ① 会費 630 万円・寄附金 220 万円を見込んでいます。
- ② 近年の委託事業・補助金の減少を受け、安定した財源の確保と寄附・入会の増加を図るための方策を検討します。
- ③ 環境省をはじめとする行政及びその他組織の委託・助成・請負事業等について内容をよく吟味し、意義のある受託・事業参加の実現をめざします。

10. 評議員・理事・監事・事務局

(1) 公益財団法人としての役員会体制の見直しと検討

公益財団法人として法律で規定された評議員会・理事会・監事会の役割と責任を再確認し、より有効に機能するよう、役員会回数などの検討を行います。

(2) 事務局体制の充実

各協同組合事務局と専任事務局がそれぞれの役割を果たし、有効に活動できるよう常に心がけます。

(3) ボランティアスタッフが活動参加しやすい体制づくり

ボランティアスタッフが専任スタッフと一緒に継続的な活動ができるよう、日常からボランティアが参加できる体制づくりをすすめます。

各センター・部会・プロジェクト等の活動計画

第8期（2018年7月～2019年6月）ストップ温暖化センターみやぎ活動計画

1. 基本方針

気候変動問題への理解と積極的な取組が国際的な喫緊の課題となっている中、日本においても、2050年までに世界全体の温室効果ガス排出量を半減することをすべての国と共有し80%の温室効果ガス排出削減をめざすと表明しました。こうした中で私たちの暮らしに関係する温室効果ガス排出量も大幅な削減が求められています。さらに低炭素社会から脱炭素社会への世界的な動きに今後対応していくことも視野に入れることが必要です。

上記を踏まえ、ストップ温暖化センターみやぎは地域における低炭素社会の構築と再生可能エネルギーの活用を目指し、宮城県地球温暖化防止活度推進員（以下推進員）、行政、他団体、教育機関とより一層の連携・協働により、宮城県民への「関心の喚起」「知識や情報の提供」「実践」を積極的に行う必要があります。そのため、下記の項目に沿った活動計画により、の地球温暖化対策の推進を図ります。

- ① 節電・省エネ・低炭素社会を目指した暮らしの啓発
- ② 推進員、行政、他団体、教育機関との連携強化及び行政等への提言
- ③ 推進員の募集、活動の支援

2. 活動計画

(1) 委託・補助事業

- ① 法律に基づく地域地球温暖化防止活動推進センターの役割を遂行するため、地域における地球温暖化防止活動促進事業(環境省補助事業)を実施します。
- ② 宮城県におけるうちエコ診断の拡充を図るため、うちエコ診断実施および診断士養成事業(宮城県委託・補助事業)を実施します。
- ③ 宮城県で活躍する推進員を新たに増やし県内における普及啓発活動を推進するため、新規地球温暖化防止活動推進員養成事業（宮城県委託事業）を実施します。

(2) 環境学習・地域イベント

- ① 推進員と連携し、小中学校、企業、その他団体を対象に環境学習への講師派遣を行います。
- ② 推進員や行政、他団体と連携し、地域イベントへの出展などの普及啓発活動を行います。
- ③ 地球温暖化問題に関する科学的知見や世界の動向の最新情報について、広く県民へ普及啓発を行うためのイベントを開催します。

(3) 広報

- 以上の事業を円滑に遂行するために、ウェブサイトや情報紙、メディア等を活用し広報活動を行います。

(4) 行政・他団体との協力

- ① 「ダメだっちゃ温暖化」宮城県民会議への参加を通じて、県内自治体での地球温暖化対策の推進を図ります。
- ② せんだい E・Action 実行委員会への参加を通じて仙台市内での地球温暖化対策の推進を図ります。

③ 全国地球温暖化防止活動推進センター、他の地域地球温暖化防止活動推進センターとの情報交流を図ります。

④ 省エネや再生可能エネルギー等に取り組む他団体との連携・協力を図ります。

(5) 提言活動

- 環境省、宮城県、県内自治体での取り組みについて、パブリックコメント等の機会を活用し評価や提言を行います。

(6) 運営委員会

- 以上の活動を円滑に遂行し今後のセンターの活動の方向性について話し合うため、年4回程度の運営委員会を開催します。

第 8 期（2018 年 7 月～2019 年 6 月）情報センター活動計画

1. 基本方針

環境や MELON について多くの方に知ってもらうため、ボランティアと協働しながら、充実した情報の受発信を目指した活動を行います。他部会と連携し、電子媒体だけではない多角的な情報の発信を行うため、様々なツールを利用した環境活動の普及・啓発を行います。

また、情報共有のための安全なツールを検討し、MELON 内部の情報流通をより活発化させます。

2. 活動計画

(1) 例会の開催

情報センターに関わるメンバーを募り、活動への参加者を増やします。

※6 回程度（2 ヶ月に 1 回程度）

(2) 企画・活動の充実

① ジャーナリスト活動

大学生やボランティアを中心としたジャーナリストチームをつくり、MELON の任意団体会員・企業会員の環境の取組みや、環境・エコに関するタイムリーな話題を取材します。取材した内容は原稿としてまとめ、ウェブサイトなどに掲載します。

※目標：年間 3 件程度の取材

② 文芸活動

親しみやすく分かりやすい情報発信を行うため、環境に関する絵本や紙芝居など身近な教材の在庫を充実させ、その積極的活用を検討します。また、遊びを通して環境について学びながら、コミュニケーション力を身につけていく手段としてカードゲーム等の作成を検討します。

※目標：仙台長町紙芝居フェスティバル、PTA フェスティバル等への参加

(3) 情報発信活動

(2) の活動や MELON 全体の活動をサポートするために、以下のメディアを使った情報発信活動を行います。また、MELON 組織内の速やかな情報交換、安全な蓄積方法、新しいメディアに対してどう対応するかを積極的に検討するとともに、会員全体に対し丁寧な情報発信を大切にしていきます。

① タイムリーで分かり易い情報発信活動

ウェブサイト・メールマガジン・情報紙などにおいて、より充実した内容をより分かり易く伝えるよう適宜情報発信に努めます。

※目標：アクセス数前年と同様もしくはそれ以上

② メールマガジンの拡大と活用

メールマガジン登録者数は第 7 期中に 1,700 人を超え、情報発信に大きな役割を果たしています。登録者の更なる増加に努め、迅速な情報の提供を行います。

※目標：メールマガジン登録者数純増 100 件

第8期（2018年7月～2019年6月）水部会活動計画

1. 基本方針

11年目を迎える「水の神さまプロジェクト」について、調査地域の範囲を広げ調査活動を継続するとともに、地域で水文化の継承に関わる方々との連携を深め、水文化や水環境の大切さについての発信・普及・次世代への継承を積極的に行います。また、水問題に取り組む他団体との連携・協働を進め、魅力ある活動を展開して新しいメンバーの加入に力を入れます。

*「水の神さま」とは、地域の人々が自然を畏れ敬い、祀ってきた「水神」「雷神」「龍神」「湯神」「井戸神」「お不動さん」「弁天さん」などのこと。それらを調査することで、水の大切さや教訓を再発見・発信することを目的としている。

2. 活動計画

(1) 例会の開催 6回程度

定期的に例会を開催し、メンバー間の情報の交換と共有のほか、水環境についての勉強や企画を実施します。

(2) 「水の神さまプロジェクト」の実施

名取川・広瀬川・七北田川・江合川・北上川・阿武隈川流域および沿岸地域で水の神さまに関する調査を行ってきました。その成果を多くの市民に発信・普及するとともに、調査地域の範囲を仙北・仙南の内陸部に徐々に広げます。具体的には以下の活動を行ないます。

① 調査活動 発信・普及を行うために必要な追跡調査を行ったり、新たな切り口での調査について検討します。

② 発信活動 他団体との協働に継続して取り組み、部会で行った調査結果をまとめ積極的に発信していきます。

③ 普及啓発活動 水文化の継承に取り組む人たちとの交流会および市民を対象とした見学会を開催します。

(3) 生きもの観察と保全活動

水環境と生物保全に資する重要な場所について、保全活動や暮らしとの繋がりについて知ってもらうため、生きもの観察と保全活動を行います。

(4) イベント・講座での活動の発信

水とくらしへの関心を持ってもらえるよう楽しく体験できる内容で、他団体で実施しているイベントのブース出展や出前講座を積極的に行います。

(5) 水環境調査の実施

全国水環境マップ実行委員会が行っている「身近な水環境の全国一斉調査」へ参加し、広瀬川の水環境の状況や変化について調査を行います。また、水環境調査に関心のある市民等を対象として調査の意義や方法についての講座の実施を検討します。

第8期（2018年7月～2019年6月）食部会活動計画

1. 基本方針

環境に配慮した食の実践を広げるため、「食」と「農」と「環境」をテーマに活動します。農家や食をめぐる問題について理解を深め、他団体と協同しながら情報収集や調査を行ない、市民へ体験・発見する機会を通して発信していきます。

2. 活動計画

(1) 例会の開催（年6回程度）

定期的に例会を開催し、学習会も交えながらメンバー間の情報交換と部会活動の方針や方法を検討します。また、メンバーの拡充と活動の活性化に努めます。

また、種子法や農薬問題などを学習します。

(2) 活動の内容

① 仙臺農塾プロジェクトの実施（年6回程度）

まちなかで働く世代の食への関心を高めるため、定期的に講座を開催します。主に市内飲食店等において、こだわりの食を提供するゲストを招き、お話しと食事を楽しむ敷居の低い内容とすることで、大人の食育を普及します。

② ネオニコチノイド系農薬に対する理解の促進

近年問題となっているネオニコチノイド系農薬の生態系への影響など、生産現場等の見学なども行いながら、生産者・流通業者・消費者への情報の発信、三者による交流会や勉強会を通して、理解を拡げます。

③ 食や農に取り組む他団体との協働

より効果的に市民に関心・行動を広めるため、食と農と環境の普及に関連する活動をしている他団体と協力し「オーガニック・ウイーク・センダイ」等、普及活動に積極的に取り組みます。

④ 生産現場等の見学・取材

東日本大震災で被災した生産現場の現状や課題を調査するため、農漁村を訪ねて見学や取材を行ないます。

⑤ 情報や活動の発信

より多くの市民が食と農と環境に関心を持ち、行動できるよう、積極的に情報を発信します。（情報紙、ウェブサイト、紙芝居など）

第8期（2018年7月～2019年6月）4R推進部会活動計画

1. 基本方針

「家庭の生ごみ堆肥化の普及活動などをさらに推進し、4Rの概念を広く一般市民に知ってもらうとともに循環型社会の実現をめざした活動」を進めます。

「生ごみ堆肥化」「ごみ減量の協同活動」の推進を柱に、他団体と協同しながら各種イベント出展等で市民に広めていきます。

* 4R：削減（reduce）、再使用（reuse）、再生（recycle）、断る（refuse）

2. 活動計画

(1) 例会の開催 6回程度

メンバー間の情報交換などを行ない、4Rへの理解を深めると共に若い世代の参加が広がるような企画を検討し、楽しい活動になるように努めます。

(2) 生ごみ堆肥化活動の推進

家庭や施設から排出される生ごみを削減するため、季節に合わせた「生ごみ堆肥化&ベランダ園芸講座」などを通して段ボール式やコンポスター式など実施主体に合った生ごみ堆肥化の作り方を広げます。

(3) ごみ減量の協同活動の推進

「アメニティ・せんだい推進協議会」などに積極的に参加し、行政や他団体等と協力・連携を図りながら活動を広げます。

(4) ごみ問題の実態・課題の理解促進

ごみのゆくえやリサイクルの現状を知り、日頃のごみ分別の意識を向上させるために下記の活動を行います。

① 環境市民講座として「仙台市の環境施設見学会」を行います。

② 「マイクロプラスチック」について一般市民へ情報提供できるように情報を収集し、環境市民講座を必要に応じて開催します。

第 8 期（2018 年 7 月～2019 年 6 月）MELON cafe 活動計画

1. 基本方針

MELON 事務局サロンスペースを、環境に興味・関心のある市民が気軽に集い情報を得る場、MELON を知り親しみを持つことのできる場として、「MELON cafe」と名付けました。このスペースで気軽に環境の学習できる場を「プチ講座」と称し、暮らしの中の身近な省エネ・3Rなどの環境問題について情報を提供し、参加者が家庭に帰って環境に配慮したライフスタイルのきっかけづくりとなるサロンを定期的に開催します。また、開催することにより会員の増加につなげます。企画内容は MELONcafe 企画部において環境について学ぶ講座の内容を検討し、実施します。

2. 活動計画

(1) 例会の開催 開催回数：年 4 回程度

プチ講座の内容を検討するため、MELON cafe 企画部において会議を行います。

(2) MELON cafe の整備

MELON 事務局サロンスペースにおいて、身近な環境情報を充実させ、気軽に訪れることのできる場所とするため、さまざまな環境情報の収集や発信を行い、MELON cafe としての環境の整備を行います。また、気軽に環境を学習する場とします。また、ともに活動するボランティアも募集します。

(3) MELON cafe プチ講座の開催

開催する場所は MELON の事務所内と事務所外の 2 種類とします。

① プチ講座の開催

“すぐ生活に活かせるエコ”をテーマに、体験・学習し、交流する場として、サロンを開催します。

開催頻度：季節ごとに 3～4 か月に 1 回程度

参加者目標：各回 10 名程度

参加率目標：募集人数の 6 割

②出張 MELON cafe

行政や他団体が主催する行事などに出張 MELONcafe を出展し、参加者にはより身近な環境問題に関心をもっていただけるよう、MELON を知らない参加者へ環境の情報を発信、学習する場を提供します。

第8期（2018年7月～2019年6月）
自然エネルギー等普及プロジェクト活動計画

1. 基本方針

宮城県内での自然エネルギー普及を目的として地域のシンボルとなりうる自然エネルギーの活用を推進します。

具体的には「小水力発電・太陽光発電・木質バイオマス等」のセミナーの開催や環境教育等を実施することで、自然エネルギーの知識を広めます。また、自然エネルギーを積極的に活用している電力小売業者の情報発信を行います。

2. 活動計画

(1) 例会の開催 年4回程度

部会員と自然エネルギーに関する情報交換、情報共有、意見交換を行います。

(2) 自然エネルギーに関する普及啓発、環境教育の推進

宮城県内の自然エネルギーを有効に活用するため、「小水力・太陽光の発電・木質バイオマス等」の普及を啓発し、環境教育の推進、政策提言に繋がります。

(3) 他組織等との連携

自然エネルギーの活用についてより内容を充実したものにするため、MELONの他部会や大学、企業、団体などと必要に応じて連携して情報交換を行います。

(4) 情報の発信（見学会、セミナー、勉強会、体験会）

- ① 電力自由化に伴い、自然エネルギーを中心とした環境配慮型の電力会社を選択できるように、県民に必要な情報の収集や発信をします。
- ② 宮城県内の自然エネルギーについて多くの県民に情報を発信するため、自然エネルギーを利用した講座の講師派遣、ウェブサイトのブログ等に活動結果を記載する他、専門家を講師に招き、見学会・セミナー・勉強会・体験会などを開催します。

(5) 必要に応じて行政（市町村も含め）に向けて自然エネルギー政策の変化を踏まえた政策提案等を行います。

第8期（2018年7月～2019年6月）みやぎ里山応援団活動計画

1. 基本方針

森林の活性化と健全な里山保全の推進を目的とし、活動を行います。MELONが森林保全活動のネットワークの拠点となれるよう、他団体と協力し生物多様性保全の理解促進・森林について学び親しむ場の提供・森林資源の活用の推進・森林保全活動の推進を行います。

2. 活動計画

(1) 例会の開催 6回程度開催

メンバー間の情報交換や情報収集を行い、里山の保全についての理解を広めるための活動を議論し決定します。また、調査活動や講座において、役割分担をしながらメンバー一丸となって活動を行います。

(2) 活動内容

① 森林について学び親しむ場の提供と生物多様性の理解の推進

他の森林保全活動団体と協力し、森林の役割や暮らしとのつながり、保全の大切さ、生物多様性について学ぶ機会を提供します。

- 市民や親子向けに体験講座を開催し、理解を深めます。
- 県内の森林保全活動団体同士や市民・学生・企業・行政等をつなぐことで、森林保全活動の促進を目指します。

② 森林資源の活用の推進

森林資源を活用することで森林保全につながるため、森林資源の効果的な利用や薪ストーブ等の普及促進を目指し、体験の場づくりや情報発信、行政への提言等を必要に応じて行います。

第8期（2018年7月～2019年6月）
エコシティ仙台プロデュースプロジェクト活動計画

1. 基本方針

ユアテックスタジアム仙台、楽天生命パーク宮城、カメイアリーナ仙台等のスタジアム・アリーナを中心に活動いたしました。今期も仙台とその周辺の環境先進都市づくりを目標として、スポーツの環境への取り組みをサポートすることを通して「環境に配慮したまちづくり」を目指し活動します。観客や本プロジェクトに関わる全ての人たちが、環境活動に関心を持ち参加したくなるような活動の企画、運営を目指します。

2. 活動計画

(1) 各球団本拠地での環境活動

- ① チームボランティアとの連携：ベガルタ仙台、楽天イーグルス、仙台 89ERS とそのチームボランティアとの連携により、スポーツでのゴミの分別・減量の啓発活動を行います。また、より環境の知識を深めるためボランティア研修会を行います。
- ② チーム、球団との連携：各試合会場等におけるエコステーションによるゴミ分別・減量啓発活動は、それぞれのチーム運営会社(球団)と相談しながら、より効果的で持続可能な方法を検討・検証し、今後も長く継続していくことを提言します。
- ③ 行政などとの連携：スタジアムや体育館を運営する行政とともに、上記の理念を現実のものにするための調査・研究・実験・検証・広報活動を行います。
- ④ 検討会議の開催（不定期）：スポーツにおける環境活動をスムーズに進め、その場で課題を解決していくために、在仙3球団と行政(環境省東北地方環境事務所、宮城県、仙台市)等との検討会議を継続し、問題点の解決を図ります。
- ⑤ その他：観客へのより一層の普及啓発・広報手段の検討や、子どもを対象としたイベントの実施、ブース設置による広報活動を実施します。

(2) その他、エコシティ仙台を目指した活動

- ① エコシティ仙台サポーターズの例会の開催（不定期）
エコシティ仙台を実現するため、MELON 会員からメンバーを募り、実践的な活動を行なうための議論や自由なアイデア出しを行ないます。
- ② その他
同じ目的を持った他団体・企業・行政などとの協働によって、環境配慮型のまちづくりと普及啓発を目指します。そのための調査・研究・実験・検証・広報活動を行います。エコシティ仙台の創成に向けて、スタジアムや体育館にとどまらない活動を視野に入れて、行政、その他団体主催のスポーツやレクリエーションなどのイベント等において 4R を普及するための活動を行います。

第8期（2018年7月～2019年6月）エコ住宅部会活動計画

1. 基本方針

活動内容としては、今後建設される住宅やリフォームする住宅について、環境保全の立場から県産材を使用した木造住宅の普及ならびに環境配慮型の仕様、またライフラインが途絶えたときのエネルギー確保の視点を取り入れた住宅の建築を促進するために活動します。この仕様・理念を小型の模型やパネル、小冊子の配布活動することで、分かりやすい告知活動を進めます。

2. 活動計画

(1) 例会の開催

定期的に例会を開催し、環境に優しい住宅についてメンバー間の情報交換と部会活動の方針や方法を検討します。

(2) 活動の内容

① 県産材を使用した木造住宅の普及ならびに省エネルギー・環境配慮型の住宅で災害時のエネルギー確保の視点やの推進するため下記の活動を行います。

- セミナー・見学会の開催：専門家・有識者によるセミナー・見学会を行います。
- 小冊子・推奨モデル模型による普及活動：自宅を建設・リフォームする人に対し、災害時のエネルギー確保や再生可能エネルギー等の視点や県産材を使用した木造住宅の建設の意義、ならびに環境配慮型住宅の良さをわかりやすくまとめた各種資料の配布や掲示をし、建設の際に参考にしてもらいます。

② 地域のエネルギー効率を高めるための調査・研究

地域のエネルギー効率を高めるために効率の良いエネルギーシステム（スマートグリッド）の調査・研究を行います。

③ 行政との連携：みやぎ復興住宅整備推進会議の構成員として、行政や関係団体との連携の可能性を追求します。

④ 他団体との連携

同じ目的を持った他団体・企業・行政・有識者などとの協働によって、県産材を使用した地球環境に優しい住宅の普及に努めます。そのための調査・研究・実験・検証・広報活動を行います。